

前

回まで、人の死や来世の問題に関わることこそ僧侶の役割、宗教者ならではの使命だと書いた。それは言い換えれば、死者と生者をつなぐことでもある。

東日本大震災直後の被災地、岩手

県釜石市でのことだ。連日、何百人

もの悲惨な遺体が運び込まれる安置

所で、床に並べられた犠牲者一人ひとりに話しかけ、献身的に世話をす

る民生委員のTさん（70）がいた。

ある日、小さな男児の遺体が搬入さ

れたが、それをわが子と確認した若い

母親はあまりの悲嘆で声も出ず、

体が動かない。そこでTさんは母子

の間に立つて男児に話しかけた。「こ

れからパパとママに守られて火葬場

に行くことになったよ。遅くなった

ね。でも、お家に帰ったらママがお

料理を作って供えてくれるよ」。そ

の言葉に母親はわが子に駆け寄った

が、「ごめんね、ママが助けてあげ

られなくて…」と涙で言うのが精い

っぱい。Tさんは「大丈夫、君はマ

マに感謝してるもん」と続ける。

それで母親はようやく夫と抱き合い、

大声で泣き続けることが出来た。

絶望的苦悩の中で、当事者が口に

さえてできない思いを代わって言葉に

する。死者と生者をつなぐ、まるで

宗教者のような行いを続けたTさん

は、かつて葬儀社に勤め、死の悲嘆

お坊さんに

期待すること

第4回



死者と生者をつなぐ

宗教者の使命

北村敏泰

ジャーナリスト
中外日報社特別編集委員

における僧侶の役割の重みを痛感していたという。仏教者への期待は大きいのだ。連載初回、死者に遺族が気持ちを伝える「風の電話」を運営する佐々木さんが、「お坊さん自身が電話になってほしい」と訴えたというのもそれだ。

実感！ 仏教は縁の宗教

原発事故被災地の福島県南相馬市の曹洞宗寺院の住職（75）は、住民が避難させられる中で寺に踏み止まり、津波犠牲者の無残な遺体を火葬場で何週間も供養し続けた。家族も生活も奪われ住まいを追われる人々は放心状態で、「肉親を弔いたい」という気持ちだけが生きる支えだった。「そのためにもしつかり生きましよう」。そう呼びかける住職は、皆が先祖や家族の縁に支えられ生かされている、仏教が縁の宗教であることを心底実感したという。過労で倒れるまで毎日何度も読経に通った

住職は、筆者の取材に「あんな過酷なお勤めが私に出来たのは、無念で亡くなった方々が憑依したからでしょう」と話した。霊魂の存在云々の話ではない。目に見えなくても死者を感じ取り、生者につなげる。これが宗教的感性ではないか。

筆者が被災地にボランティアに行った際にも感じた。行動を共にした京都の日蓮宗の僧侶は、現場で瓦礫撤去などの作業にひたすら汗を流し、お坊さんらしい素振りも見せなければ、問われないと僧侶とも名乗らない。が、作業の間に何事かを念じている様子で、聞くと「この場で亡くなった方の霊を感じ、寺に連れ帰って供養させていただくのです」と言う。別の機会、同行した金光教の教師は物資支援での訪問先で、「このあたりに何人もの遺体が置かれていた」と不安がる被災者の求めに応じ、正式な鎮魂の祭礼を斎行した。

経典、教義上の論議というより、

実生活の中で生きている人々に「死」をどのように伝えるかだ。最近、各地で注目されている「臨床宗教師」の生みの親であり、宮城県の前代表だの支援団体「心の相談室」代表だった故・岡部健医師が生前、語ってくれた。「人は生きている間は医療とか福祉とかいろんな手立てがあるのに、死という山の尾根を越えてあの世に降りて行く時には暗闇の中で何の道しるべもない。そこにこそ宗教者の役割があるんです」と。

彼は長年、在宅ホスピス医療に携わり、看取りの現場で、臨死者が亡くなった父母など近しい人の「お迎え」に遭うという話に数多く接した。自らもがんで亡くなる前、家族に囲まれた自宅で過ごし、そして強い興味を示していた「臨終行儀」さながらに、信頼する僧侶が最期まで付き添った。岡部医師は身をもって宗教者に大きな期待と、そして重い宿題とを示したと言えるだろう。

Toshihiro Kitamura

1951年大阪生まれ。75年京都大学法学部卒業、同年大手新聞社入社。社会部記者・編集局部長など歴任。現代社会における宗教など取材。著書『苦縁 東日本大震災 寄り添う宗教者たち』

尋坊帖

Jinboucho

葬儀の説明責任

―青年僧の会では、毎年、住職学という講座を開かれているんですね。

当会ができてもうすぐ40年になります。住職学講座は当初より開催していました。最初は1年おきにやっていたのですが、最近は毎年開催しています。

―篠塚さんが会長になられた昨年、そして今年と「新しい仏教（僧侶）のかたち」をテーマとしていますが、それはどんなことですか？

はい、テーマのさらに核となるテーマは「死」ですね。臨床宗教師として末期の方と向き合われている先生、グリーフケアを広める活動をされている先生など、死に関連した活動をされている方々に講師をお願いしました。今年はそれを受けて、死を見つめたうえで、どう日常を生きるかという内容を予定しています。

―その背景には、死が多様化してきているという認識があたりですか？

死や葬送というのは、お寺と切っても切れない関係できたわけですが、それが

死が多様化する現代にこそ
僧侶の姿勢が問われてくる

篠塚 純海 臨済宗青年僧の会会長

葬儀の簡略化の波はとどまることを知らず、僧侶も檀信徒とのコミュニケーション不足が嘆かれる今、あらためて葬儀の司式者としての自覚を甦らせる。

取材・文 ● 小川有閑 撮影 ● 北谷幸一



Junkai Shinozuka

1975年埼玉県本庄市児玉町生まれ。

慶應義塾大学経済学部卒業。花園大学院文学研究科修士課程修了。

学生時代は長期休暇を利用して、海外旅行に出かけ、中国、アメリカ、メキシコ、ヨーロッパ、タイを訪れ、その土地の様々な文化に触れる。

卒業後、埼玉県新座市、平林寺僧堂にて修行。

現在、臨済宗青年僧の会会長、臨済宗妙心寺派教学研究委員、花園大学国際禅学研究所客員研究員、龍泉寺副住職。

これまでお寺が最低限行う事務手続きについて少しふれました。

それは①給料に関する手続きと②

都道府県に提出する書類の作成です。

②を提出しないと、都道府県から督促状が届きます。「そういえば」

と心当たりのある方も多いのではないのでしょうか。

そこで今回は②の内容を中心にお話したいと思います。

10万円以下の過料が課されてしまうのです。

都道府県に提出する書類の一覧は以下のとおりです。

■どのお寺も提出する書類

●役員名簿

●財産目録

■作成している又は該当する場合に提出する書類

知っておきたい寺院会計 ⑥

財産目録を 作成する(1)

河村照円

真言宗智山派阿弥陀院住職・税理士

提出書類、怠ると過料

毎年、どのお寺でも都道府県にくつつかの書類を提出しなければいけません。それは会計期間の終了日から3ヶ月以内に作成して、4ヶ月以内に提出することになっています。会計期間が4月1日～3月31日のお寺は、7月31日が提出期限となります。提出していない場合には督促状が届き、それでも提出をしないと

財産目録は宝物帳

次に財産目録ですが、これは会計

年度末において有する資産と負債の一覧を表したものです。資産は「特

別財産」「基本財産」「普通財産」の3つに区分されます。

特別財産には、主に仏像・仏具な

ど礼拝や儀式を行う上で必要となる

財産を載せます。しかし金額が不明

な場合には「評価しない」と記載し

て、0円での計上でもかまいません。

基本財産には、宗教活動を行う上

での財産的基盤となる境内地・境内

建物などを載せます。もし基金があればここに記載します。

普通財産は、通常の寺院運営において必要となる現金・預貯金や車両

といった財産を記載します。

負債には、マイナスの財産を記載

します。無借金のお寺の場合、通常

は給料に対する源泉税(所得税・住民税)を記載します。

特別財産と基本財産は、毎年大きな変動がありません。前年の財産目録に基本財産と負債の金額を更新し

て、財産目録を作成しているお寺が

ほとんどではないでしょうか。

財産目録は今までの歴代住職が残

してくれた宝物帳であるともいえます。長い年月をかけて築き上げられてきた特別財産や基本財産の重みを感じるとともに、あらためて自分が

これからお寺を守っていく決意を胸

に、毎年の財産目録を作成しています。ぜひ昨年の財産目録の数字を更新するだけでなく、一つひとつの仏具の確認までされると、財産目録が

また違ったものに見えてくると思います。

財産目録

〇〇寺

平成 28 年 3 月 31 日現在

	区分・種別	数 量	金 額	備 考
	(資産の部)			
特別財産	1. 宝物			
	(1) 地藏菩薩像	1 体	0 円	評価しない
	2. 什器			
	(1) 経机	1 脚	0 円	評価しない
	特別財産計		0 円	
基本財産	1. 土地			
	(1) 境内地	1,500㎡	15,000,000 円	近隣地価比準額
	2. 建物			
	(1) 境内建物			
	本堂、庫裡外	1,000㎡	30,000,000 円	取得価額
	基本財産計		45,000,000 円	
普通財産	1. 車両	1 台	2,000,000 円	取得価額
	2. 普通預金		12,204,000 円	
	3. 現金		500,000 円	
	普通財産計		14,704,000 円	
	資産合計 (A)		59,704,000 円	
	(負債の部)			
	4. 預り金			
	(1) 源泉所得税・住民税等		50,520 円	
	負債合計 (B)		50,520 円	
	正味財産 (C) = (A) - (B)		59,653,480 円	

Shouen Kawamura

1978年茨城生まれ。真言宗智山派阿弥陀院住職。立命館大学経営学部卒業後、智山専修学院にて僧籍取得。自坊に税務調査が入ったことをきっかけに税理士を目指す。平成17年税理士登録。趣味は読書とカフェ巡り。

こんなになんでもできるフィールドをいただけて、本当にありがたいと思っています。

そう笑顔で語るのは鶴園恭子さん。自身も得度をし、浄土真宗本願寺派の僧籍を持つ坊守さんだ。公務員の家庭に生まれ、障がい児教育や高齢者福祉の現場で勤務した後、光明寺の副住職一麿さんと結婚したのは11年前。それまではお寺とは無縁の生活だった。嫁いで一年半あまりのうちに一麿さんの両親が相次いで往生、下積みもほとんどないまま坊守となり、走り続けてきた。その11年をふりかえって出てきた感想が、冒頭の感謝の言葉だ。

子ども、高齢者、障がい者、引きこもりやニート、家の中から地域のこととにいたるまで、あらゆることに関わることが出来る。多少やりすぎても「お寺の奥さんだからしょうがない」と許してもらえる。もともと福祉に関心があった恭子さんにとって、お寺には無限の可能性が秘められていた。

家の奥に入れる特権

「私はほとんどお寺にいないから、坊守じゃないんです」と恭子さん。謙遜かと思いきや、どうも本当らしい。光明寺サマースクール（子どもお泊り会）のお手伝いスタッフの面々に「どんな坊守さんですか？」と尋ねると、「恭子さんのこと、坊守と言ってもいいのね。お寺

を守ってないじゃない」とドツと笑いが起きた。もちろん信頼関係があつてこそ笑いだ。ではどこに出かけているのか。気になる人の家に顔を出しているのだ。

一人暮らしの高齢者や病気がちで引きこもり気味の人、家族を亡くしたばかりの人など、定期的に顔を出している家が15、6軒、そのほかにも気にかけている家はある。自転車での買い物、帰り道、ちょっと寄ってみる。2、3軒のはしごは日常茶飯事。独居のお宅であれば、1時間以上話し込んでしまう。「お寺を出たら2時間は戻ってこないから、住職にはいつも怒られるんです」と恭子さんは肩をすくめる。

在家出身の恭子さんには、僧侶であれば各家の仏間まで自然と入っていけることが新鮮だった。「お仏壇は家の奥にありますから、家庭の奥まで見ることが出来るんです。家の中を見れば、その家のいろいろなことが見えてくるでしょ。民生委員や保健師だって、普通は玄関までですよ」と話す恭子さんに、訪問するきっかけの作り方を教えてもらった。

住職の一麿さんが、お盆や法事で自宅にお参りに行った際、たとえばお年寄りの一人暮らしということが分かると、恭子さんに「あのお宅に行った方が良さよ」と教えてくれる。恭子さんは、料理を多めに作った時などに「お斎が多めにできたんですけど、召し上がってくださいませんか？」と連絡をしてみる。そうする

一人暮らしの門徒さんを訪問。「恭子さんが来てから、住職の声が大きくなったわね」の一言に頬がくずれる



サマースクールでは子どもたちも朝のお勤め



班に分かれて仏教クイズ。当たった！ヤッター！



夜はお待ちかねの花火大会

まちに開く、まちを拓く

少子高齢のまちに坊守が自転車で笑顔を運ぶ

光明寺 宮崎県西諸県郡高原町

浄土真宗では古くから住職夫人を坊守と呼び、坊守は門徒や地域をみちびく役割を担ってきた。過疎がすすむ町で現代の坊守が果たす役割をさぐる。

取材文 ● 小川有閑 撮影 ● 北谷幸一



裏での呼び名は「寺」

編集部 今日はお忙しいなか、ありがとうございます。東京では儀式を行わない直葬が3割を超えていると耳にします。皆さんの感覚ではいかがですか？

けんじ 直葬は増えています。ただ、お坊さんが来る直葬もあります。昔の直葬って何もしないのが多かったけど、今は炉前でお坊さんが来て読經するパターンも増えている。葬儀が炉前に変化したといえはいいのかな。率としては、昔は月に100件のうち10件が直葬で、お坊さんが来たのが1件としたら今は100件のうち直葬が30件、そのうち10件にお坊さんが来る。お坊さんと呼ばれる自体は増えている。

ともみ 火葬場で待っている寺、結構、多いよね。

編集部 へん？ 寺？

ともみ あ、ごめんなさい、つい癖で……。

編集部 裏ではお坊さんのこと、「寺」って呼んでるんですか？

よしえ あー、私のところもだ。ここカットしておいてくださいね。

編集部 実態が分かって、覆面座談会らしくて良いですよ。話を戻しますが、お坊さんが来る直葬が結構あるのですね。

けんじ 今は、お坊さんが直葬でも受けてくれるでしょ。紹介セン

覆 | 面 | 座 | 談 | 会

言いたい、聞きたい、ホントのトコロ

マル秘！

葬儀屋さんのこわ〜い話

上

組み込み初七日や一日葬など、葬儀の簡略化は東京から広がっていると言われます。

寺ばなれが進み、僧侶の派遣・紹介サービスがビジネスになっている今、僧侶と毎日のように顔を合わせている東京の葬儀屋さんは何を思うのでしょうか。

取材・文 ● 小川有閑 イラスト ● 下杉正子

参加者紹介



葬儀社勤務
笑顔が武器の小悪魔系
よしえさん (32歳)

自社斎場を持つ大手の葬儀社に勤務。「私は若手」と思っていたら、いつの間にか中堅社員に。友引の前日は基本酔いつぶれるまで飲む酒豪。



葬儀社社長
物腰の柔らかさはこんにやく以上系
けんじさん (42歳)

老舗葬儀社で修行の後、生まれ故郷で起業。葬儀が大好きで、ついつい仕事に没頭してしまい、奥さんには頭が上らない2児の父。



派遣社員
あたしや、誰にも縛られないぜ系
ともみさん (30歳)

商社でOLをしていたが、嫌気がさして退職。しがらみなく働ける現在の職につく。葬儀の現場に派遣され、司会や返礼品係をこなす一匹狼。

認知症があつてもよりよく生きるために②

岡村毅 医師

認知症の症状は中核症状とBPSD(※)にわけられますが、中核症状を治すことは現代医学では至難の業です。しかし、もの盗られ妄想などのBPSDはよくなります。つまりBPSDを治すというのは、よりよく生きるためのお手伝いにはなりません。

実際、現代医学は救命や延命のみから、よりよく生きることに軸足が移りつつあるので、このような考え方は決して異端ではなく、むしろ王道であると言えます。

認知症をおそれてびくびくしながら生きますか？

私はずっと大学病院や高齢者専門研究機関で診療をしてきましたので、「どうしても認知症になりたくない」「認知症を進行させたくない」と外来を受診する方に多く巡り合ってきました。もちろん認知症になりたい人はいないと思いますし、少しでもお力にな

れればと努力してきました。しかし、

認知症予防のドリルを毎日何時間もやらされて、何のために生きているのかわからないような状態の方や、家族が毎回「できなくなったことリスト」をもってきて本人の前で読み上げ「先生の治療が悪からだ」と訴えるという方々、あるいは「〇〇という薬をどうしても処方してくれ」とごねる方もおられました(いつまでもなく保険医療においては希望すれば処方されるものではなく、必要がある場合のみ国費が投入されるのです)。

そのような方々に限って、「他人と接することが自然なので近所の仲間と楽しく過ごしてはどうですか、デイサービスなどに行きましょ」と伝えても、「近所の人は信用できない」などと言って拒み、自分で自分の世界を狭めてしまいがちです。もっと別の生き方があるのではないか、残念なことだ、と思います。

高齢であつても、たとえ認知症であ

つても、自由に楽しく生きることが可能で、私たちは、いつかは死ぬのですし、認知症になるときはなるものですから、あまり考え込まずに前を向いて、周囲の人と信頼し合つて生きるのが良いと思います。

高齢者を支える新しいケアを創る

とはいえ、確かに現在行われている高齢者ケアでは不十分かもしれないという意見は傾聴に値します。音楽療法や集団レクリエーションはどうしても行きたくないという高齢者がおられます。我々専門家は、まだこの世には存在しないのかもしれない新しいケア、よりよく生きることをお手伝い

できるようなケアを作り上げていかなければなりません。

仲間の学者や医師と何度も話し合い、私たちの出した答えの一つは「稲作」でした。

稲作は、収穫物もあるし、体を動かさず、季節を感じることもできます。仲間と楽しむことができるし、みんなで計画してすすめるというグループワーク的側面もあります。しめ縄やお祭りといった文化とも結びつきが強く、地方では子供のころから慣れ親しんだ活動でもあり、回想療法的側面もあるでしょう。

今回は稲作ケアのことを紹介したいと思います。



イラスト ● 北村 人

Tsuyoshi Okamura

1977年米国生まれ、医学博士(東京大学)。

専門は認知症学、社会医学。これまで山谷のホームレス支援団体とも協働してきた。

※Behavioral and Psychological Symptoms of Dementiaの略。

もの取られ妄想など、認知症のなかで周辺症状と言われるもの。詳細は前号参照。